

議長記者会見（第28回）会見録

日時：平成30年2月16日（金）

午後2時15分から

場所：石川県議会議事堂

議長応接室



会見を行う米澤議長（右）と山口副議長（左）

1 今定例会を振り返って

皆さん今日もご苦労様でございました。1月議会も終わったわけでございますけれど、今議会は戦後初めて1月開会という議会でございました。そういった中、皆様方、そして執行部、議会事務局の職員等々皆様方のご協力によりまして、無事終えることができた。これも皆様方のご協力のおかげだと思っております。感謝を申し上げます。

この議会中ではございましたけれど、37年ぶりとなりますかね、大変な県内各地で、記録的な大雪であったわけでございますけど、交通機関も麻痺しましたし、議会を含め通勤、通学等々それから物流もですね。こういった意味で県民生活に大きな影響があったこの議会中であったわけでございます。

そして、大変残念なことにこれらの大雪によりまして、お亡くなりになられました方々

に心からお悔やみを申し上げたいと思いますし、また、除雪等々で負傷された方々もたくさんいらっしゃると思います。お見舞いを心から申し上げたいと思っております。更に、能登のほうでございますけれど、先月下旬の記録的な寒波によりまして、能登地域を中心に水道管の凍結による漏水が広範囲であったわけでございます、一時は1万世帯を超える断水のところがございました。この復旧まで10日くらいを要したようございまして、不自由な生活をずっとおくられたんじゃないかなと思っております。本当にこれもお見舞いを申し上げたいと思います。それから降雪もかなりありましたので、家屋の倒壊も含め、家屋の被害がたくさん出ているようございまして、我々議会としても、執行部に万全な対応策について申し入れしていきたいと思っております。

そして今まさに、開会中でございますけれど、平昌オリンピックでございます。2月9日に開会したこのオリンピックに本県出身の選手2名が出場されているわけございまして、昨日のアルペン女子大回転、石川晴菜選手でございますけど、大変県民一丸となって声援をしたんじゃないかなと思っております。結果的には、少しあれでしたけれど、それでも世界の中の第33位というのは、すごい成績だったと思います。滑りを見ても本当に期待を持てる滑りだったなと思っているところでございます。今晚は、また、小口貴子選手がスケルトンのほうで出場されますから精一杯頑張ってください。また、遠い地でございまして応援してみたいと思います。なにはともあれ、こうやってオリンピックに出るということは、県民に夢や希望、これを与えてくれる大変素晴らしい快挙であるかなと思っております。

また、25日から新潟県のほうで国民体育大会スキー競技が開かれるわけでございます。本県代表の選手達も、石川晴菜選手や小口貴子選手に負けないように頑張ってほしいなということで、健闘を心からご祈念申し上げたいと思っております。

今議会は、皆さん方ずっとお付き合いしていただいておりますからだいたいおわかりと思っておりますけれど、準通年型の予算でございました。そういった意味では、いろいろ知事のほうも踏み込んだ答弁もできなかったとか、そういうこともありましたけれど、決して私は各議員の先生方が提案したものは、この次必ずや花を開いてくる政策実行型の予算に変わってくる、私はそのように思っています。特に、東京オリパラに向けて、見据えた近代美術館工芸館の整備や金沢城公園、それから新県立図書館等々に関しても、論戦がございましたから、これからもまた、素晴らしい石川県が切り開かれていくんじゃないかという感じがしております。また、知事もよくコメントされておりましたけれども、今回の大雪で、そんなに大きな乱れも見せなかった北陸新幹線というのは、本当にすごいなと思っております。今までの新幹線の中でもこれだけの定時運行といいますか、せいぜい遅れても1分2分、そういうような運行をされたというこの北陸新幹線の強さというのは、改めて我々も感心をさせられたところでございます。そういった意味では、これから4年目に入るわけでございますけれど、これからもっともっと県下全域に、能登や加賀のほうに、もっともってお客さん呼び込んでいくような取り組みについても、

また、我々も執行部と一緒に考えていきたいと思っているところでございます。そのほかにも、人材不足対策とか、障害者福祉の問題、教職員の多忙化、特に今日は、聴覚障害者の方々の条例も、手話言語条例も成立しましたし、今日は40名の方々が傍聴に来られておりましたけれど、本当は、第33号議案どうしますかということをやりたいんですけど、残余の中で処理したんですけども、そういった意味では、また一歩、障害者対策も進んでいったかなという感じがしております。

そういうような今回の議会でもございましたし、なにぶんにも12月議会が終わってから今回まで本当に時間がなかったものですから、各先生方も質問の中身等々もだいぶご苦労されたと思っております。そういった中で、この議会開催までの1月30日までの間に、新県立中央病院の開院もございましたし、それから、小松空港では初めてのLCC、タイガーエア台湾の就航もございました。この台湾との友好を北陸地域、石川県も福井県も連携をしながら、もっともっと交流を深めて参りたい、そういうふうにいるところでございます。定例記者会見的には、今回は、そのくらいかなという感じがするわけでございます。よろしく願いいたします。

2 質疑応答

記者

全国的に地方議会の地方議員のなり手不足が深刻な問題になっていて、石川県でも統一地方選でも無投票のところが多かったりとかして、同様の問題が県内にもあると思うんですけど、そういった現状認識についてどう考えられていますか。

米澤議長

地方議員のなり手と言いますと、全国議長会の中でも議論になっておまして、一つにはいわゆる議員の身分というものが、何となく非常に厳しいものがあるわけじゃないですか。今議会にも出てきたとおり別に退職金とかあるわけじゃなければ、まあ、当然なんでしょうけれど、そういった意味では、年金も、今、こういうような状況でございますから、今の若手の先生方は、年金もあたらぬような状況でございますし、そういった意味で、精一杯365日24時間活動しているにもかかわらず、やめてしまったら何もないと、そういった意味では、地位の向上っていうのはおかしいんですけど、ひとつ年金くらいは、退職金までほしいということは言っていないから、せめて、年金くらい自分たちの積み立てて、そのくらいの対応はできないかということ、全国議長会としても、国のほうに対して強く要望していますし、国のほうも少し検討を始めている段階でございます。ただそこには厚生年金でございますから雇用主負担というのがある

ということも十分承知しておりますから、その分はしっかりと仕事でまじめに恩返しをすれば、県民の理解を得られるんじゃないかな、そういう、まず入り口のところも、整備してあげないと大変厳しい経済状況の中で、なり手をどうぞと言っても、なかなかいられないでしょうし、そこら辺、特に山口副議長は能登のほうでございますから、人口減少の中でそう言った話というのは、どうなんですかね。議員のなり手と言いますと。

山口副議長

早く若い人に出てほしいなと思うんですが、責任持って出てくださいと言うだけの裏付けがないもんですから。この辺が本当に残念だなと思うんですけども、引っ込み思案する若い人を無理矢理にどうこうということも出来ないし、必然的に私の選挙の場合にはこんなじじいでもやれやということになってしまうんだらうと思うんですけど、私も出来るだけ早い段階で若い人にバトンを渡せればいいなと思っているんですけど。

記者

そういう意味では、今、自民党の中で議員立法で、地方議員が、今お話もありましたけれども、厚生年金に入れるような法案を今国会で成立目指しているわけですけど、そのあたりは評価。

米澤議長

そのあたりは、やはりある意味じゃ、よく喩えて言われる、猿も木から落っこちたらどうのこうのという話でございます。議員もそうですよね。そういったある程度の何かないと、それだけじゃないですよ。それだけじゃなくて、議員っていうのは昔から地元名士というか、いわゆるおらが村をいいがにするためとすることで、やっているのが本来でございます。本来でございますけど、やはり、そういった中で、これからもいろんな若い方が出る場合、それなりのものがかかるわけですよ、それをクリアしなければ出れないという制度もおかしいと思うんですよ。だから、ある意味じゃ、もう財産持っている人しか出れなくなるような状況にも成り得ますからね。そう言った意味ではもう少し身分の保障みたいな、少し手助けを出来ればいいと思うんですけどね。後はとにかく、我がまちを、この石川県をどうしていくかという、その熱い熱い心さえ持っていれば、何でも突破出来ると思いますけれど、そこにはやはり、日常の政治活動も含めて、いろんなことが関係してきますから、まあ、議長、副議長という立場からすると、必要最低限のそういった厚生年金のほうの加入というのは、せめて出来ればいいなという感じがしております。

記者

ありがとうございます。

記者

今回、知事選前、最後の議会が終わったということで、この4年間の議会活動を総括するとどういったことになりますか。

米澤議長

知事のですか、知事じゃなくて、

記者

議会として。

米澤議長

議会としてですか。この4年間と言いましたら、もう北陸新幹線オンリーだと思うんですね。その他にもいろんな事業を展開してきましたし、そう言った意味では、今までの長年の下積みと言いますか、積み上げられたものが、新幹線金沢開業と同時に開花したかなそういう感じがするわけでございます。もうそれの一言に尽きるかなと思っております。そして、今日は2025の大阪の万博誘致のこともしましたけれど、あれも山口副議長とも相談したんですけども、あれは大阪のことだっという認識はなくて、我々との北陸新幹線の京都、大阪延伸というものは念頭に置きながら、これからも関西圏とやっぱり手を携えていかなければいけない、そういう思いがあったものですから、あれを決議させていただいたわけでございますけど、そういった意味では、今までは北陸新幹線金沢開業で、どうしても関東圏のほうに目がやりがちだった。しかし、昔から、石川と言いますか、この地はどちらかと言うと、関西圏、中京圏などが、今までは影響が強かったと思いますから、もう一度足下を見直ししながら、幅広く、そして北陸新幹線がまさに、東海道新幹線の代替機能というものが、今回本当に証明されたと思っておりますから、そう言った意味では、もっともっとこれから頑張っていかなければいけないと、そして一日も早くレールが繋がるように執行部と議会と協力しながらやっていかなければいけないと思っております。

記者

議会と知事との関係、権力の抑制と均衡ということが言われますけれど、この4年間、議会としていわゆるチェック機能というか、そういったものが十分に果たせたというふうにお考えでしょうか。

米澤議長

はい。やはり、それぞれの議員が、議会という場を通じていろんな質問戦の中とか、

それから常日頃の政治活動の中で、万が一、知事の言論がおかしいなと思ったら、すぐさま申し入れ、申し入れということじゃないでしょうけど、あれおかしいんじゃないかとか、いろんなことをやってきましたからね、そして、予算の執行に関しましても、やはり決算特別委員会もありますし、予算委員会もあります。各常任委員会もありますけど、そういう中で1点1点詰めてきたその積み上げだというふうに思っておりますから、決して知事が提出するもの全て、オールオッケーと言うんじゃないで、それなりに皆さんで議論を重ねてきた結果だと思います。その結果が、石川県を日本海側のトップランナー、今までは、本当、裏日本に石川県ってあるのか、まあ、金沢なら知っているけど、そういう感じのところ、オールジャパンの中でも、日本海側のトップランナーだな、そういう認識を今、構築しつつあるんじゃないかなと思っておりますから、そう言った意味では、執行部と議会とそれぞれ車の両輪によく喩えられますけど、切磋琢磨しながら頑張ってきた成果じゃないかなと僕は感じておりますけど。

記者

7選を目指す知事に対して、まだ選挙のことはわからないですけど、引き続きそういった機能としてはしっかりと。

米澤議長

はい、それは、知事がよくおっしゃるように能登を元気にしなきゃいけない、加賀も元気にしなきゃいけないと常日頃言ってますから、そういった意味では、本来はですよ、選挙する立場にしてみれば、票の多いところを一生懸命やれば楽なことないです。それじゃ、県の発展というのがあり得ませんから、やはり能登も頑張っ、そして加賀も頑張っ、金沢もと、私はその一本かなと思っておりますから、そう言った意味では、谷本知事もそこら辺の政策に関しては、それぞれ均衡な予算配分、事業の着手ということ、を心がけてやってきているなという感じはしますから、まあ、当然箱物みたいな大きいものは、どうしても金沢ですからね、ちょっとそういうのが目立ちますけど、決して能登のほうに少なかったとか、加賀少なかったということは、我々の予算をいろいろ見ていて、それは感じますから。やっぱり、きめ細やかな配慮っていうのは谷本知事はされているな、そんな感じがします。特に今朝の地元紙にも山口副議長のコメントが出ていたとおり、やっぱりああいうコメントが出るということは、それぞれ力を入れているということ、皆さん方が実感されているんじゃないかと思う。ただ、人口減少とか高齢化社会を迎えているというそういう厳しさは、当然ありますけれども、そういう中でも、力を入れてきているかなという感じがしております。

記者

トータルとして、この4年間の県政については、ある程度評価できる結果だったと。

米澤議長

私は。私はですよ。

記者

はい。ありがとうございます。

米澤議長

今のは、議長というより個人ですよ。

記者

今年、能登立国1300年ということですからけれども。議会として課題というか、こうなっしてほしいなということがあれば。

米澤議長

確かに1300年というものすごい歴史のなかに、築かれてきた伝統なり文化なりがあるわけでございます。そして、例えば、具体的な名前は出すのはあれですけど、お寺を国宝にしようとかという運動もありますし、去年の珠洲市で行われた芸術祭、私も行ってまいりましたけれど、素晴らしいなと思いましたが、能登の人たちというのは、何か仕掛けてあげれば、元気が出てくるんだな、というのは、おじいちゃん、おばあちゃんたちを含めて、本当に活気がある芸術祭だったなと思いますから、そう言った意味では、もっともっと1300年という契機をね、いかに活力のほうに向けていくかということが、今年の、来年度の大きな課題かなと思っていますし、当然、そういうなかでジャンボリー大会も開催されますし、これを起爆剤にしながら、少し、まだ具体的には、我々は執行部ではないものですからあれなんですけれども、いろんな提案をまた能登の先生方と一緒に協力しながらやっていきたいなと思っています。

記者

ありがとうございます。副議長はどうですか。

山口副議長

私のほうは、記者の皆さんも同じでしょうけど、ニュースになりやすいテーマにどうしても乗っかかるということなんですけど、奥能登に住んでおりますと、そういうものだけじゃなくて、本当に1300年の歴史を積み重ねてきたものが、だんだん衰退して、継続が出来なくなっているものがたくさんあるわけです。大事なもので。そこに何か光を当ててもらって、地域住人がやる気を起こすようなそういう施策がないものかな

と思っておるんですけれども。これは確かに地味でニュースになることも少ないと思いますけれど、これを放って置くとみんな廃れてしまって、ただ表向きに騒ぐイベントとか、そういうことが重視になってしまって、本当に宗教に繋がるとか、神に繋がるとか、この地域にこんな伝統がずっと受け継がれてきたというものがだんだん継続出来なくなっているということに、ちょっと、何というか、さみしさを感じておるんですけれど。まあ、難しいテーマだと思いますけれど。

記者

例えば、どういったことが。

山口副議長

例えば、私らの小さな集落には、石像を作って、その石像をお参りするという。それは、いろんな宗派、1宗派じゃなくて他宗派の人も集まって、このお参り出来るというのがあるんですけれども、交流会して集まる人は、若い人で70ぐらいですか、平均は80。若い人は全然興味はないし、そんな暇もないからということで、私はその行事というのは、もう数年で絶えてしまうのではないかなと思います。そんなようなものがたくさんあるんですよ、それが今までの井戸端会議みたいなものを兼ねたり、あるいは、集落の親睦を兼ねたりというのをやっていたんですが、そんなことがだんだん無くなっていく。私の村の場合は、いろんなお地蔵様が奉ってあるんですが、それぞれにお地蔵さんの云われがあるんですけれども、それを知っておいでるお年寄りも少なくなってきた、今の若い人とかは、これは何のお地蔵様なのか、そんなところにお地蔵様あったかな、そんな程度になってしまっているもんですから、日の当たらないところに何とか光を当てていただいて、皆さん一緒に頑張りましょうよ、守っていきましょうよというのが、この1300年のなかで取り入れていただければ、私は、本当にありがたいなというふうに感じております。

記者

ありがとうございます。

山口副議長

一つだけいいですか、取り上げていただきたいことが。今回の大雪で被害にあわれた方にお見舞い申しあげたいと思いますが。長い時間の間に金沢が降らなくて、奥能登にたくさんの雪が降ったという年が何回もあるんですよ。金沢に雪が降ると、皆さん慌てて、金沢大変なことになっているとか騒ぎますけど、奥能登にどんだけ雪が降ったって何も関心持ってもらえないんです。私、地元の集配の郵便局長しておったんですが、当時は二輪車通行禁止というのがありまして、雪が降ると配達のパイク使えないんです。

いちいち警察署に問い合わせ、今日は二輪車出せませんと言うと金沢の北陸郵政局に電話かけて、今日はこんなんですから、臨時の賃金を出してくださいと言うと、「柳田、いつもかも何のこっちゃいや」と怒られたんですよ。「金沢はなんも雪ないぞ、そんなに雪あるんかいや」ということで、大変な目にあっただけではありませんし、村長時代は、村税全部集めても3億円しかないのに、1億円以上除雪に使うときもあったんですよ。皆さんにすれば、1億円くらい大したことはないと思うかもしれないけれど、財政力指数が0.12しかないところに1億とか、1億何千万とか、ものすごくでかい金なんですよ。ですから、金沢が降ったから大騒ぎ、金沢降らないから大騒ぎでなくて、どこに降っても、除雪費はかかるんで、公平な、公正な見方、予報とか積雪とかというのをもっとマスコミの方にPRしていただいて、たまたま今年は、奥能登は雪が少なかったけども、断水で大変な目にあっているわけですから、そういったことを県民同じ理解で、特別交付税もお願いしたりするのは、知事だけが動いていてもだめなんで、金沢の議員さんも、加賀の議員さんも、能登の議員さんも全部の国会議員もですね、みんなで力を合わせて国のほうに要望活動できるようなそんな形にして、特に今年は金沢ですから問題ないと思うんですよ。能登に降って、金沢に降らないときが問題なんで、その時にも、人の痛みをわかりあえるようなそんな議会であってほしいと思うし、そういう県民であってほしいなということをおもいましたので。